

研究ノート

実習指導者講習の継続・発展を目指す フォローアップ研修の効果



沖野 良枝¹⁾、米田 照美¹⁾、前川 直美¹⁾、金森 京子¹⁾
 梶 朋子²⁾、藤井 淑子²⁾、谷口 智子³⁾

¹⁾滋賀県立大学人間看護学部

²⁾滋賀県看護協会

³⁾大津市民病院付属看護専門学校

背景 研究者らは平成18年、A県実習指導者講習会のカリキュラムの構成やその統合的演習である実習指導案作成のねらいや方法、その効果を検証し今後の課題を探る目的で受講後の指導や意識に関する調査を実施した。その結果、作成した指導案の有効活用に繋がる演習のあり方の検討と共に、指導上の葛藤や困難感の克服を支援し、能力の維持、発展を図るための継続教育の必要性の示唆を得た。そこで今回、講習効果の継続・発展をめざしたフォローアップ研修を計画、試行した。

目的 実習指導者講習会後の効果的な実習指導の実施、指導能力の向上など講習効果の継続・発展を目的としたフォローアップ研修の試行および効果を検証することである。

方法 研究デザイン：フォローアップ研修会の実施、効果分析による量的記述研究

研究対象：A県実習指導者講習会修了者および関心のある看護職で研修に参加した158名。

研究時期：平成20年1月～3月

研究内容：研修プログラムは、実習指導の方法論についての講演（3時間）および指導評価、情報交換のための6テーマ別分科会（分科会2時間、全体会議1時間）とした。効果は研修前、研修時の質問紙（5段階SD法、一部記述式）の回答に対し、講習会受講、未受講者間比較検定（ノンパラメトリック検定）、受講者回答の相関分析、満足度の要因探索（重回帰分析）により検証した。

結果 参加158名のうち、講習会受講者98名、未受講者48名。女性135名、男性13名、平均年齢34.6（±6.0）歳。質問紙有効回答数は「研修前」140名、「研修終了時」148名であった。最多の参加動機は、受講者「自分自身の関心」（19%）、未受講者「上司の勧め」（40%）で自発的、義務的な差が示された。受講者の講習会後の意欲や関心は64%が継続、19%は継続していなかった。研修時の質問紙16項目の標準化 α 係数=0.874で内の一貫性は得られた。講演に関する「内容の理解」と「関心の程度」、分科会に関する「討議への参加度」、「情報交換度」において受講者は未受講者に比較して有意に高い評価であった（ $p=.038$, $p=.039$, $p=.004$, $p=.033$ ）。研修会全体の「満足度」については受講者84%、未受講者88%で共に高い評価を示したが、研修会の開催自体、受講者は未受講者に比し有意に高い評価を示した（ $p=.042$ ）。受講者の「満足度」に関連する因子は講演、分科会共に、「今後への活用」、「テーマへの関心度」が67%、62%寄与していた。

結論 参加動機の内発性、外発性の相違、講演に対する理解と関心の程度、分科会における討議への参加、情報交換度において受講者は未受講者に比べ有意に高い評価を示した。受講者の研修全般への評価と満足度は高く、また、講演や分科会での関心あるテーマの学習、今後への活用感と関連していたことから、再教育、今後の指導へのフィードバックの機会としてのフォローアップ研修の効果が評価されたと考えられる。

キーワード 実習指導者講習会、臨床実習、実習指導者、フォローアップ研修

2008年9月30日受付、2009年1月9日受理

連絡先：沖野 良枝

滋賀県立大学人間看護学部

住 所：彦根市八坂町2500

e-mail：y-okino@nurse.usp.ac.jp

I. 緒言

看護教育における臨地実習は、学生が基礎教育の中で学んだ知識、技術、方法論を、実践を通して具体化し、専門職としてのスキルを認知、体得するために欠かせない学習プロセスである。その指導は実習施設のスタッフにより担当されることが實際上また、法的にも望ましいが、臨床指導者の資格、要件としては、厚生労働省（以後、厚労省と述べる。）により規定され、都道府県主体で実施される保健師助産師看護師実習指導者講習会（以後、講習会。）受講が唯一のものである。講習会は、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に規定された各養成所指定基準として求められる利用実習施設に必要な実習指導者¹⁾を育成するためのものである。厚労省により定められた「都道府県保健師助産師看護師実習指導者講習会実施要綱²⁾」に基づき、都道府県が実施主体とされているが、実際には都道府県看護協会や教育機関への委託事業として実施されることが大半である。ちなみに、県よりの委託事業としてA県看護協会で開催されている講習会の目的は、「受講者が看護教育における実習の意義、指導者の役割を理解し、効果的な実習指導を可能にするために必要な知識・技術の修得」と掲げられている³⁾。講習会は教育および看護、実習指導に関する科目など計240時間のカリキュラムで構成されている。しかし、受講は、実際の実習指導者（以後、指導者。）の資格として義務付けられている訳ではない。しかも、受講資格の第1には、「実習施設で実習指導者の任にある者²⁾」とある。現実に、多くの指導者は講習会受講後指導を担当しているが、指導途上で受講者もみられる。つまり、実習指導者の育成は現実の後追いになっている側面がみられるのが現状と言える。臨地実習の学習効果は、指導者の看護観、指導力や関わり方に大きく影響されるため、教育側として指導者の育成の在り方やその成果への関心は高いものがある。特に、受講者が修得した知識、技術をその後の指導にどの様に活用しているか、講習終了時の意識や意欲、指導力がどのように維持・発展しているのか把握することは、教育側の関心と同時に講習会の評価としても重要である。研究者らは平成18年、A県看護協会との共同研究としてA県実習指導者講習会におけるカリキュラム構成の適切性、実習指導案作成の在り方や効果、活用上の課題を分析・検証する目的で、講習修了者の受講後の指導や意識の状況に関する調査を実施した。その結果、講習後の指導上の評価と課題⁴⁾、講習会で習得した実習指導案が実際の指導で有効に活用されていない状況⁵⁾や講習後の指導者の指導上の葛藤や困難感⁶⁾が明らかになり、作成した指導案の有効活用に繋がる演習のあり方の検討と共に、実施した指導の評価、指導上の葛藤や困難感の克服を支援し、能力の維持、発展を図る

ために継続教育の必要性が示唆された。また、回答者から経験交流やフォローアップの機会を望む意見も示された。田原ら⁷⁾は、講習会の動向と効果を調査し、指導者の指導上の疑問や不安に対する教育的示唆や方向性を見いだすフォローアップ研修の必要性を報告している。こうした研修の必要性については、A県看護協会においても年来の懸案課題であった。協会では、効果的な講習会とするためにカリキュラム内容の見直しと充実や継続的教育体制の確立を念頭に、毎年、開催してきた。しかし、現行事業では受講後の再教育・継続的研修体制まではシステム化されていないため、実現されない課題に留まっていた。一方で、平成21年に予定されている看護教育カリキュラム改定の主旨を鑑みると、臨地実習の位置付け、実習指導者の役割と資質の向上、そのための系統的教育、研修は一層重要になると予測された。このような課題や状況を勘案し、研究者らは、フォローアップ研修を前述した講習会後の継続教育の一環として、指導力の維持、向上のための再教育と実践の評価、フィードバックの重要な機会と位置付け、本研究に取り組んだ。

これまで、講習会受講者の指導状況の実態、受講後の意識や動向、講習会の影響や効果等の調査、報告は多数見られる⁸⁾⁻¹⁰⁾が、講習会後のフォローアップ研修会の実施、評価については、最近の海外の文献からは検索できなかった。

そこで、今回、講習会後の効果的な実習指導の実施、指導能力の向上など講習効果の継続・発展を目的に、フォローアップ研修会を試行しその効果を評価、考察した。

II. 研究方法

1) 研究デザインと課題

本研究は、講習会後の受講者を対象としたフォローアップ研修会を試行し、参加者への質問紙調査の結果により効果分析を行う量的記述研究とした。

研究仮説は次のように設定した。

- (1) フォローアップ研修会における再学習、経験交流へのニーズと評価は高い。
- (2) 講習会受講者と未受講者には、研修会への参加度と評価に差がみられる。
- 2) 研究対象：A県実習指導者講習会修了者および研修テーマに関心のある看護職で研修会に参加した158名。
- 3) 研究時期：平成20年1月～3月
- 4) 研究内容：講習会後のフォローアップ研修会の試行および効果の検証。
 - (1) 研修会目的；講習会終了後の再教育およびこれまでの実習指導の振り返り、経験や情報交換。
 - (2) 研修テーマ；効果的な実習指導の持続的発展を目指す学習と交流

(3) 研修内容：

講演（3時間）：ねらい；再教育としての実習指導の方法論

分科会（分科会2時間、全体会議1時間）：
ねらい；指導の振り返り、評価、経験や情報の交換

- テーマ；①学生の理解と関わり方
②教員との連携強化
③実習指導案の効果的活用
④指導者のための実習評価法
⑤教育手法と実習指導（2会場設置）
⑥自己研鑽とキャリアアップ

(4) 検証：研修前、研修時の質問紙結果による評価分析による。

5) 質問紙：「研修前」質問紙は事前に研修会参加予定者に対して看護管理部に配布を依頼し、研修会当日回収箱への投函により回収した。

「研修時」質問紙は当日参加者に対して配布し、講演、分科会、終了時に回収した。

3種の質問紙は、同一整理番号により対応させた。質問紙は、文献レビューを参考に以下の概要で研究者らが作成した。

- ①「研修前」研修前の参加動機や関心、講習後の指導状況、自身の指導力向上への努力に関する無記名多肢選択、一部記述式質問紙。
- ②「研修時」講演、分科会、研修会全体に関してそれぞれ内容の理解、関心度、有用性、活用可能性、討議への参加度、経験交流の状況、満足度を問うSD法による5肢選択、一部記述式質問紙を使用した。SD法では5段階数値の高い方を肯定的、低い方を否定的な格付けとした。

6) 解析：「研修前・時」に実施した質問調査結果の記述統計、「研修時」結果の標準化得点による講習会受講、未受講者間比較（ノンパラメトリック検定）、受講者回答の相関分析および重回帰分析（ステップワイズ法）による満足度の要因探索により解析した。有意水準は1%以上とした。分析には、SPSS14.0 for windowsを使用した。

7) 倫理的配慮：臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省、H16年改訂）に基づき、研修会前に、参加予定者に対して研究目的、研修会の開催趣旨、研修会参加前後の質問調査について文書で説明し、研究への自由意思による任意の参加、参加後の撤回の自由を周知した。質問紙は、無記名とし、回収箱への投函により同意の意思表示とみなすこと、回収データの使用目的と管理法、集団としての統計処理、報告について記載し協力を得た。

III. 結果

1) 研修会参加数

研修会参加数は総数158名であった。その内、講習会受講終了者（以降、受講者と述べる。）、未受講者数、指導経験は表1のとおりであった。また、各分科会参加数は表2に示した。

表1 実習指導者講習会受講未受講別数

	受講者 (%)	未受講者 (%)	NA (%)	計
研修前	91名 (65.0)	39名 (27.9)	10名 (7.1)	140名
研修時	98名 (62.0)	42名 (26.6)	18名 (11.4)	158名
指導経験 (現在)	平均1.7 (±1.7)年	0.7 (±1.6)年		91名
(過去)	平均1.7 (±2.9)年	0		38名

表2 分科会参加者数

分科会	テーマ	人数
第1分科会	学生の理解と関わり方	25名
第2分科会	教員との関係と連携強化	19名
第3分科会	実習指導案の効果的な活用法	22名
第4分科会	指導者のための実習評価の方法	22名
第5分科会	教育手法と実習指導のテクニック	46名
第6分科会	自己研鑽とキャリアアップ	20名

2) 質問紙有効回答数（率）：「研修前」140名（88.6%）、「講演に関して」158名（100%）、「分科会に関して」150名（94.9%）、「研修終了時」148名（93.7%）であった。回答者の属性については、性、年齢分布、臨床経験を表3に示した。

表3 回答者の属性 (N：研修前=140名, 研修時=158名)

調査時期	性別名 (%)			年齢 歳			臨床経験 年		
	女性	男性	NA	最小	最高	平均 (SD)	最短	最長	平均 (SD)
研修前	127 (90.7)	12 (8.6)	1 (0.7)	25	51	35.0 (6.2)	1	25	12 (5.8)
研修時	135 (85.4)	13 (8.2)	10 (6.3)	24	51	34.6 (6.0)	1	26	12 (5.8)

3) 参加動機と実習指導に対する意欲や関心の継続

「研修会前」の回答から、参加前の意識を受講者、未受講者別に把握した（図1）。受講者の参加動機が多かったのは、複数回答228の内、「自分自身の関心による」（19%）、「上司の勧め」（16.7%）、「今後指導を担当するため」（15%）、「他施設の受講者との交流」（11%）などであった。また、未受講者の動機は、91回答の内、「上司の勧め」（40%）、「今後指導を担当するため」（17%）、「自分自身の関心」（12%）などであり受講者との違いがみられた。研修会で学びたい内容として、受講者は、複数回答302の内、「学生との個別的、効果的な関わ

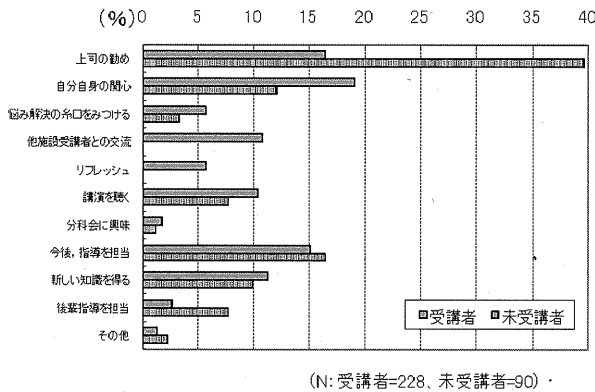


図1 参加動機

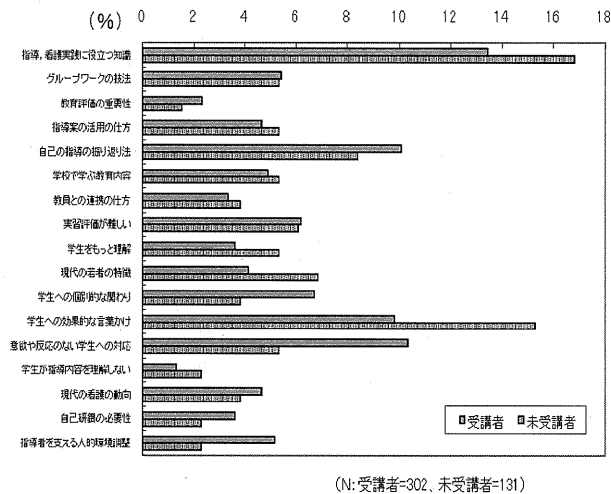


図2 研修会で学びたいこと

り方」(17%)、「指導や看護実践に役立つ知識を得たい」(13%)、「意欲や反応のない学生への対応」(12%)などであった。未受講者は、「学生との個別的、効果的な関わり方」(20%)、「指導や看護実践に役立つ知識を得たい」(17%)、「現代の若者、学生の理解」(12%)であった(図2)。

受講者の講習会後の実習指導に対する意欲や関心は、「やや」も含め64%が継続している、19%は「やや」も含め継続していないと回答している(図3)。継続に関する要因についての自由記述をカテゴライズし表4に示した。主な継続要因は、「講習会の学びが活かせる」、「指導による学びや看護への影響」、「学生の変化、成長」などが回答され、継続できていない要因は、「指導から離れたり、継続的にしていない」、「指導の困難感」であった。また、受講者の40%は指導向上のための努力をしているが、15%はしていないと回答していた(図4)。また、受講者の実習指導の環境については、「スタッフが協力的」、「勤務に配慮がある」、「上司の理解が良い」の順で回答されていた(図5)。

4) 研修会の内容に関する評価

研修時の質問紙16項目については、標準化Cronbachのα係数が0.874得られ、質問内容の内の一貫性は得られた。研修会の内容に関する評価については、講演会、分

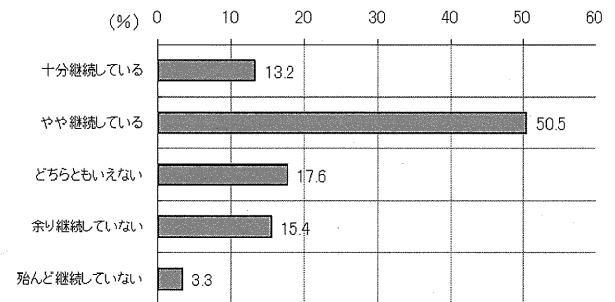


図3 受講者の講習会後の意欲の継続

表4 講習会後の指導意欲の継続要因 (自由記述) (N=56名)		継続していない要因 (N=15名)	
カテゴリー	コード数	カテゴリー	コード数
・講習会での学びが活かせる	16	・指導を離れた、継続的に指導をしていない	8
・指導の実施により得られる自身の学び	12	・学生、教員への対応や指導が難しい	5
・学生の変化、成長	9	・職場環境からくる精神的負担の重さ	4
・まだ、指導の機会がないため、継続している	8	・患者との関わりが希薄になる	1
・指導により自身の看護を見直せる	6		
・指導者同士、教員の協力がある	5		
・後輩指導への活用	4		
・実習指導が楽しい、好きである	4		

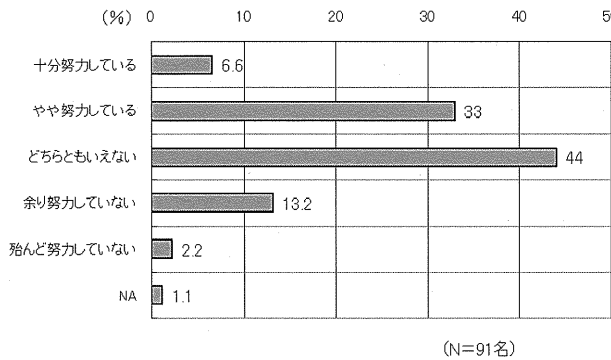


図4 受講生の講習会後の努力

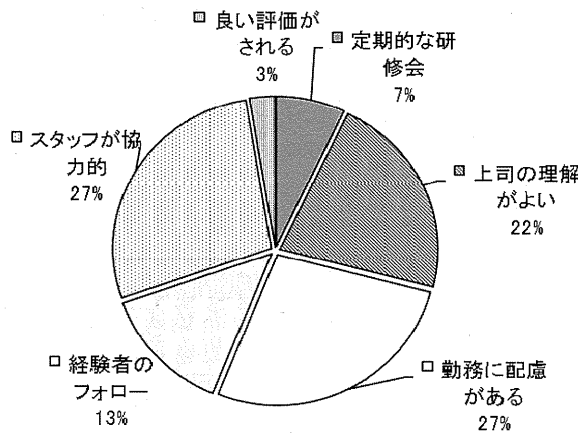


図5 受講生が意識する指導環境の保証 (N=155)

科会、研修終了時に行った質問紙の結果の受講、未受講者別比較を表5に示した。再教育としての講演会に対しては、内容が「経験型実習教育に関する方法論」であったためか、4以上の評価が、「内容の理解」では受講者82%、未受講者63%、「関心の程度」では同じく91%、79%であり、受講者は有意に高い評価をしていた。なお、講演の「満足度」については、受講者は83%、未受講者は79%が4以上の評価であった。一方、分科会に関しては、「討議への参加度」は、受講者53%、未受講者26%、「情報交換」では同じく61%、43%であり、比率は低いを受講者の方が有意に評価していた。「満足度」については、どちらも62%と講演に比較して低下していた。しかし、研修会全体としては、「意欲や関心に変化があった」に4以上の回答をした受講者77%、未受講者88%、また「満足度」についても受講者84%、未受講者88%であり、未受講者の方が評価は高かった。

研修会の開催自体について、受講者は84%が適切、14

%がやや適切と回答し、64%が適切、26%が不適切と回答した未受講者に比較し有意に高い評価をした(図6)。

5) 研修内容の満足度に関連する因子

研修会の受講者への影響因子を探るために、質問項目間の相関分析を行った(表6、表7、表8)。講演会に関しては、「テーマへの関心の程度」、「新しい知識の獲得」、「今後への活用」と「満足度」の間に強い相関が見られた($r_s=.726, p<.01$) ($r_s=.717, p<.01$) ($r_s=.723, p<.01$)。また、分科会に関しては、「テーマへの関心度」、「今後への活用」と「満足度」の間に強い相関がみられ($r_s=.699, p<.01$) ($r_s=.756, p<.01$)、研修会全般に関しては、「努力する気持ちの高まり」、「何らかの示唆を得た」と「満足度」の間に中程度の相関が見られた($r_s=.532, p<.01$) ($r_s=.549, p<.01$)。さらに、研修会の「満足度」に関連する因子を重回帰分析により探索した。講演と分科会では、共に「今後への活用」および「テーマへの関心度」が67%、62%寄与し($R^2=.668, SE=.440, F=97.5, p<.01$)、($R^2=.621, SE=.573, F=78.9, p<.01$)、研修会全体については、「示唆を得た」、「意欲や関心の変化」、「今後に役立つ」の3因子が、44%寄与($R^2=.424, SE=.458, F=24.6, p<.01$)していることが示された。

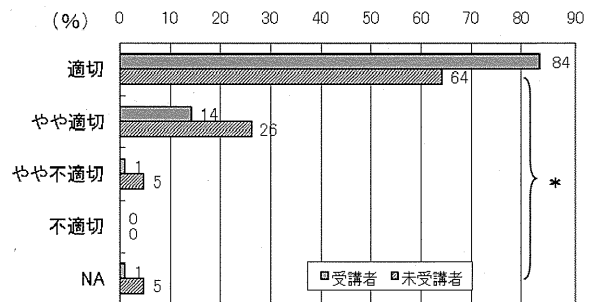


図6 研修会の開催自体

IV. 考察

1) 参加動機と講習会後の指導に関する意識

研修会の参加動機では、受講者に「自分自身の関心」、「新しい知識を得る」、「講演を聞く」、「分科会に興味」など自発的な学習動機が40%、「悩みの糸口を見つける」、「他施設の人との交流」、「リフレッシュ」など情報や経験交流による現状の改善を期待した回答が16%を占めていた。また、研修会で学びたい事として、「指導や実践に役立つ知識」、「指導の振り返り」、「学生への個別的、効果的な関わり方」、「意欲や反応のない学生への対応」などの回答が34%であることから受講後の指導者がフォローアップ研修に期待することは、新しい知識や情報を

るのは当然の経過と考えられる。今回の受講者の参加動機に自発的部分が特徴的であったのは、初めての試みに対する関心と合せて、そうした欲求の存在が伺える。内発的動機づけの特徴の一つに「自分の興味によって動機付けられたとき、課題にすぐとりかかろうとするだけではなく、そのための方法を見つけようと行動し、自ら活動に従事する機会を創造する」ことと説明されている¹⁴⁾。現在の講習会後の指導者の状況は、そうした創造の意識が高められている状況であり、その保証の場が求められていると推測された。

講習会後の指導への意欲や関心は64%の人が継続していると回答しているが、受講直後の意欲や努力は低下していることが考えられた。継続要因として、講習会での学びを活かした実際の指導ができること、指導を通して学生の変化や成長を体験し、それにより自身も学びや気付きを深め、教えることの楽しさや喜び、重要性の認識を自覚することによると考えられる。また、実習指導を行う環境として、スタッフの協力や上司の理解、勤務上の配慮などがあると意識できることも意欲の継続を可能にしていると判断される。逆に、15%の人が継続できていないと回答しているが、その要因として継続的に指導を担当していない、指導から離れてしまった、指導がうまくいかない、職場環境からの精神的な負担などが回答されている。新井ら¹⁵⁾の報告では、「教育・指導・評価の方法・内容」など認知領域の困難感が半数以上を占めていたが、次いで、学生に対する指導上の配慮など情意

領域の困難を多く感じている事が示されている。指導者講習の効果を維持、発展させるためには、指導を継続すること、指導上の困難や悩みに対する検討やサポートが保証される、指導者自身も何らかの成功体験をすることが要件と言える。そうした体験や問題解決、実践のフィードバック、交流の機会として、フォローアップの場が望まれていると判断できる。

2) 講演に関して

フォローアップ研修会における講演の意図は、新たな学び、発見・知識の獲得を目的とした再教育であった。講演内容や講師の提唱する看護教育論、経験型新人教育、実習指導・教育の方法論は、この目的に合致し、新たな学びによる指導者自身の実習指導に対する振り返り、今後の在り方への示唆など適切で有益な内容であったと考える。受講者が再教育を目的とした講演の理解度や関心の程度について未受講者に比べて有意に高く評価していたのは、前述の調査に示された講習会において役に立った科目として回答されていた¹⁶⁾、「学生理解」「教育方法」「評価」「実習指導の意義や方法」等の既習学習に融合すると同時に、新たな教育、指導の視点により積み上げられた再教育の効果ではないかと考える。新しい知識の獲得度、今後への活用や満足度はどちらも評価が高く、今回の試みは指導の継続・発展にとって新しい学びや知識獲得の機会として効果的であったことが示唆された。

3) 分科会に関して

講演に比較すると分科会への参加意識や情報、意見交

表6 講演会に対する評価項目の相関

(Spearman の ρ 、N=98)

	内容の理解	関心の程度	新しい知識の獲得	今後への活用
内容の理解	1.000			
関心の程度	.639**	1.000		
新しい知識の獲得	.549**	.572**	1.000	
今後への活用	.495**	.646**	.602**	1.000
満足度	.620**	.726**	.717**	.723**

表7 分科会に対する評価項目の相関

(Spearman の ρ 、N=98)

	討議への参加	テーマへの関心度	経験交流	情報交換	今後への活用
討議への参加	1.000				
テーマへの関心度	.492**	1.000			
経験交流	.597**	.656**	1.000		
情報交換	.602**	.554**	.821**	1.000	
今後への活用	.250*	.671**	.602**	.539**	1.000
満足度	.333**	.699**	.576**	.565**	.756**

表 8 研修会全般に対する評価項目の相関

(Spearman の ρ 、N=98)

	意欲や関心 の変化	努力する気 持ち	示唆を得た	今後に役立 つ
意欲や関心の変化	1.000			
努力する気持ち	.574**	1.000		
示唆を得た	.365**	.566**	1.000	
今後に役立つ	.390**	.529**	.505**	1.000
満足度	.493**	.532**	.549**	.481**

換への評価と満足度は低かった。

分科会では、参加者の活発な討議による情報交換や経験交流の中から、指導者自身がこれまでの自己の指導の振り返りや評価を得ることを期待したが、自発的な発言や積極的な問題提起が少なく、討議が円滑に展開し難い面が見られた。その要因として、参加者個々のニーズや期待のズレ、2時間という討議時間の制約、1分科会の参加人数、各分科会毎の司会、助言者であるための進行上の偏りと限界、通常行われがちなグループワークとは異なる分科会と言う形式に不慣れであったことなどが関係していると考えられた。各分科会の参加者は20名前後であり、全員の発言と活発な意見交換のためには2時間では十分討議が保証されなかった可能性もある。また、今回は、参加対象を講習会修了者及び関心のある看護職としたため、未受講者27%、指導経験の無い人26%や経験の浅い参加者も含まれていたため発言者が限られ、全員が討議に参加できなかった分科会もあり、参加意識が感じられない状況が生じたと考えられる。特に受講者、未受講者の間で討議への参加度、情報交換に有意な差がみられたのは、両者の意識やニーズのずれを反映したものと考えられる。

4) 研修会全般について

研修会全般を通して、参加者に意識の変化も窺えた。実習指導に対する「意欲や関心に変化が感じられた」人は、全体としてややも含め74%、「今後そのための努力をする気持ちが高まった」人は77%、研修により「なんらかの示唆を得たと感じた」人は82%見られ、満足度は79%であった。受講者は研修会の開催自体をややも含め98%が適切と回答し、90%の未受講者に比較し有意に高い評価をしていた。また、受講者には、研修内容の今後への活用感や何らかの示唆を得ることにより有益であったとの意識が推測され、満足度も高く示された。この満足度に影響する主な因子が研修内容の活用可能性であったことは、指導者の実践上のニーズの所在を改めて確認させられるものである。

以上の結果より、今回の研修会の意義や効果は検証されたと同時に、講習会後の研修や再教育のニーズは高く、フォローアップにより講習会の効果の維持・発展の可能

性が示唆されたと考えられる。

現在、大半の都道府県で、講習会は年度毎の委託事業として実施されている。そのため、事業は年度毎に完結され、その後の継続やステップアップ教育までの規定を持たないため実現され難いのが現状だと言える。しかも、日本看護協会の生涯教育体系の視点からみた継続教育の範囲には、実習指導者教育は含まれていない¹⁰⁾。指導者のその後は、指導者からの離脱、キャリアアップによって上級管理者コースに取り込まれることになり、システムとしての専門性が蓄積されず、臨床指導の系統的専門領域として確立しない現状がある。そうしたシステムであれば、今後も講習会後のフォローアップの機会は正規に得られることは困難である。しかし、看護教育における臨地実習の意義と重要性、学生の実践能力の修得、臨床教育力の向上と継承を考えるなら、講習会後の継続教育はそのための重要な要素であると考えられる。今後、講習会後の指導能力の維持、発展のためには、実習指導をキャリアアップの一プロセスとして捉えるのではなく、臨床教育・指導の専門コースとして位置付け、教育専門分野としての臨床指導スペシャリストとしての能力を段階的に高める何らかの継続的、系統的教育・研修システムの確立が望ましいと考えられる。

V. 結 論

研修会前の意識調査から、講習会後の指導意欲や関心の継続、効果的指導のためには、指導の継続、指導上の困難や悩みに対する検討やサポート等の要件が望ましいと示唆された。また、講習会受講者のフォローアップ研修に期待した点は、新しい知識や情報を得ると共に、具体的な指導方法の取得やスキルアップ、悩みや不安の解決など実践上の課題に対する検討であった。これらの点から、今回の研修への受講者のニーズは高かったと考えられる。そのことは、講習会参加動機の内発性からも推測された。研修会では、講演に対する理解と関心の程度、分科会における討議への参加度、情報交換の程度において受講者は未受講者に比べ有意に高い評価を示した。また、受講者の高い評価は、講演や分科会での関心あるテ

マの学習、今後への活用感と関連していたことから、再教育、今後の指導へのフィードバックの機会としてのフォローアップ研修の効果が示されたと言える。研修全般への受講者の肯定的評価と高い満足度は、今回のフォローアップ研修会が実習指導者講習会の継続・発展の一ステップとしての効果を裏付けるものと考えられた。

本研究の限界：本研究は、特定の県の調査結果に基づくフォローアップ研修の第1回目の試みであり、結果の一般化には限界がある。また、研修会参加対象を関心のある看護職に拡大した結果、未受講者、指導経験無しや経験の浅い参加者も含めることで、運営、効果上限界を生じた。特に、分科会では各集団の期待やニーズがばらつき、議論が深まらず不消化に終わった面がある。研修会では、対象の限定、テーマと内容の焦点化が望ましい。

なお、本研究は、A県ナースセンター事業の受託および滋賀県立大学人間看護学部地域交流看護実践研究センター共同研究助成に基づきA県看護協会および滋賀県立大学人間看護学部の共同研究として行った。

謝 辞

本研究にあたり、A県実習指導者講習会後のフォローアップ研修会にご参加、ご協力くださいました皆様に深謝いたします。

文 献

- 1) 厚生労働省：保健師助産師看護師学校養成所指定規則、平成20年改正。
- 2) 厚生労働省：都道府県保健師助産師看護師実習指導者講習会実施要綱、平成6年。
- 3) 滋賀県看護協会：平成18年度滋賀県実習指導者講習会実施要領。
- 4) 寺田美和子、沖野良枝、米田照美他：実習指導者講習会が受講生にもたらす効果、第38回日本看護学会論文集－看護教育－、pp. 60-62、2007。
- 5) 沖野良枝、寺田美和子、前川直美他：実習指導者講習会後の実習指導案の現状と課題、第38回日本看護学会論文集－看護教育－、pp. 63-65、2007。
- 6) 米田照美、前川直美、沖野良枝他：実習指導者講習会受講生のその後の心理状況、人間看護学研究6、pp. 77-89、2007。
- 7) 田原幸子、溝口満子、竹内佐知恵他：「保健婦・士」「助産婦」「看護婦・士」実習指導者講習会修了受講者の動向と講習会の効果、東海大学健康科学部紀要第6号、pp. 87-92、2001。
- 8) 小山敦代、佐々木綾子、吉川邦子他：実習指導者の指導状況の実態に関する検討－実習指導者講習会受講1年後の受講者を対象として－、福井県立大学看護短期大学部論集第7号、pp. 97-106、1998。
- 9) 滝島紀子、田原幸子、溝口満子他：実習指導者講習会受講生の目標達成度の評価およびカリキュラムの検討、東海大学健康科学部紀要第6号、pp. 66-70、2000。
- 10) 城丸瑞恵、中谷千鶴子、中垣紀子他：看護管理者が臨床実習指導者講習会にスタッフを参加させた理由と期待、看護実践の科学2001.7、pp. 59-63。
- 11) 秋元典子、森本美智子、森恵子：看護への動機づけを促進する臨床実習の指導方法、Quality Nursing、10(3)、pp. 63-74、2000。
- 12) Carole Orchard：The Nurse Education and the Nursing Student：A Review of the Clinical Evaluation Procedure, Jounal of Nursing Education, 33(6), 243-244.
- 13) 細田泰子、山口明子：実習指導者の教育的アプローチの特徴とその関連要因、日本看護学教育学会誌14巻2号、pp. 1-16、2004。
- 14) Y. シャラン、S. シャラン/石田裕久他訳：「協同」による総合学習の設計、北大路書房、p. 14、2001。
- 15) 新井恵津子、大平志津、岡崎廣子他：臨地実習指導の在り方 臨地実習指導の困難感から考える、日本看護学会論文集－看護教育37号、pp. 188-190、2007。
- 16) 杲朋子、藤井淑子、沖野良枝他：実習指導者講習会が受講生にもたらす効果と課題－アンケート調査の結果より－、平成19年度滋賀県看護学会集録 pp. 55-57、2007。
- 17) 日本看護協会：継続教育の基準 2000年5月。

(Summary)

Exploring the Effect of the Follow-up Seminar After the Regular Training Course for Clinical Supervisors for Nursing Students.

¹⁾ Yoshie Okino, Terumi Yoneda, Naomi Maegawa , Kyoko Kanamori

²⁾ Tomoko Hinode, Toshiko Fujii

³⁾ Tomoko Taniguchi

¹⁾ School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

²⁾ Shiga Japan Nursing Association

³⁾ School of Nursing of Otsu Citizen Hospital

Key Words Training Course, Nursing Instructor, Clinical Teaching, Follow-up course